2023年度　大阪大学・超域イノベーション博士課程プログラム
Basicコース履修者選抜試験

受験番号：

氏　　名：

**注意事項（**※以下の注意事項の内容を十分に確認し、提出時にはこの文を含め以降の注意事項を削除してください。**）**

1. 解答文は日本語で作成すること。
2. フォントは11ptを使用すること。
3. 冒頭にタイトルを記載すること。
4. 行間を調整し、重要部を太字にするなど、可読性に配慮すること。
5. 解答は最大4ページ以内とする。
6. 必要に応じて図表等を含めてもよい（カラー可）。ただし図表の下部に、自作の図表の場合にはその旨を明記し、引用の場合には出典を記載すること。
7. 解答作成にふさわしい資料・データ・情報などを各自で収集すること。解答作成に際して参考としたものは必ず本文中で引用を明示し、その書誌情報・URLなどについて、文末に参考文献リストを付すこと。参考文献リストは字数制限に含まない（すなわち、参考文献リスト部分については4ページを超えてもよい）。
8. 本文中の引用・参考文献リストはハーバード方式で作成すること。

（本文中の引用例）

画面構成理論とは～（略）～である（鈴木 2005 p.7）。

（参考文献リスト例）

教育未来創造会議 (2022).『我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方に

ついて（第一次提言）』

<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/pdf/ikkatsu_dl.pdf>

鈴木克明 (2005). 「教育・学習のモデルと ICT 利用の展望： 教授設計理論の視

座から」，『教育システム情報学会誌』，22 (1), 42-53.

吉田晴世 (2008). 『ICT を活用した外国語教育』，東京電機大学出版局．

1. 提出されたレポートの内容は剽窃チェックソフトにより、不正行為の有無を確認

する。剽窃とみなされる事例などについては、レポート審査・⾯接試験詳細に示すので、必ず確認すること。

10. 解答作成 において生成AIを利用する場合は、下記の点に留意すること。

・AIの生成した文章には誤った内容が含まれている可能性があるため、解答文に利

用しないこと。信頼性の高い別の資料を用いて真偽を十分に確認し、適切な引

用・参照表記を行うこと。

・AIの生成した文章に着想を得るなど、間接的に利用した際は、利用したシステム

名とプロンプト等の使い方を明らかにした上で、受験者自身が発想・執筆した部

分の範囲が明瞭となる記述をすること。

・生成AIに読み込ませる情報はシステムに蓄積・学習される可能性があるため、個

人情報や機密情報を提供しないよう配慮すること。

詳しくは、生成AIの利用に関する本学の方針を参照すること。

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/topics/2023/04/17001>